

予想をやや下回る8月米雇用統計

ポイント① 雇用者数は減速

9月2日に発表された8月分米国雇用統計によれば、非農業部門の雇用者数は前月比15.1万人増と事前の市場予想（18万人増）を下回り、6月の27.1万人増、7月の27.5万人増から減速しました。失業率は4.9%と前月から横ばいでした。また、民間部門全雇用者の時間当たり賃金は前月比0.1%の上昇に留まり、前年同月比でも2.4%の上昇と7月の2.7%を下回りました。

ポイント② 年内利上げの観測

一般的に前月や事前の市場予想を下回る内容であったことなどから、FRB（米連邦準備制度理事会）が次回9月20、21日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で昨年12月以来の利上げに踏み切るためには決め手に欠くようです。

しかし、失業率は米国で概ね完全雇用と考えられる5%を4か月連続で下回り、労働需給が引き締まった状態が続いていると言えます。失業率や賃金上昇率の水準から見て、現在の政策金利の水準は低すぎる感も否めません。

市場では9月や大統領選挙直前の11月1、2日のFOMCでの利上げ公算はそれほど高くないとの見方が多いようですが、12月13、14日の今年最後のFOMCでの利上げを予想する声はかなりあるようです。

ポイント③ 統計発表後、米ドル高・円安

9月2日の米国為替市場では米ドル高・円安方向に動き、一時7月末以来の1米ドル=104円台をつけ、利上げ観測の高まりを反映しているようでもあります。しかし、雇用統計の発表直後には一時的に米ドル安に振れた局面もあり、その内容の評価よりも、統計発表が為替市場でのポジション調整のきっかけになった面が強いように見受けられます。

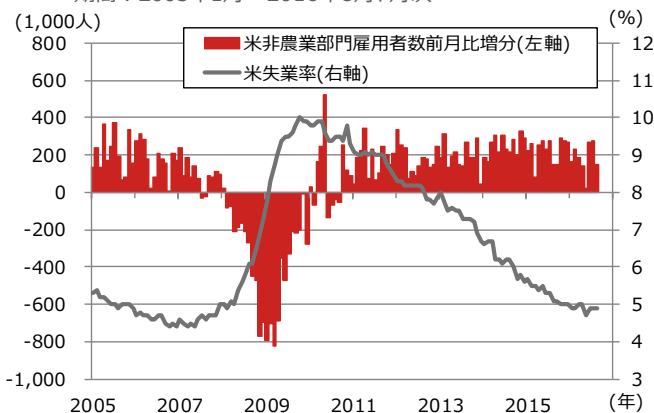
今後の為替市場の動向を占う上では、9月20、21日のFOMCに向けて、米国の各経済指標が利上げを促すような堅調な動きを示すのか、FOMCでの利上げの有無、FOMC後の声明などでの金融政策の方向性への言及などが注目されます。

重要
イベント

9月15日 米國小売売上高（8月）
9月16日 米国の消費者物価指数（8月）
9月21日 米国の金融政策発表

図1：米非農業部門雇用者数と失業率

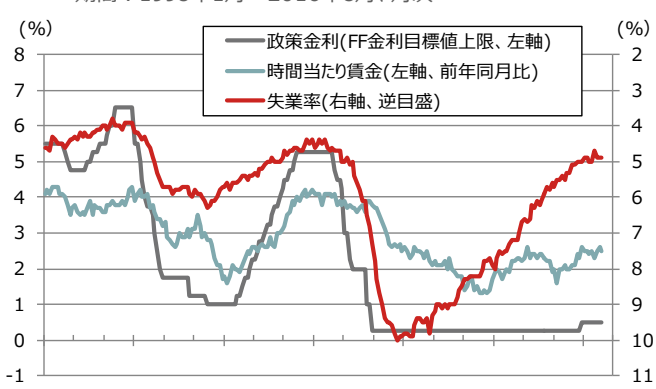
期間：2005年1月～2016年8月、月次



（出所）米労働省データより野村アセットマネジメント作成

図2：米失業率、賃金上昇率と政策金利

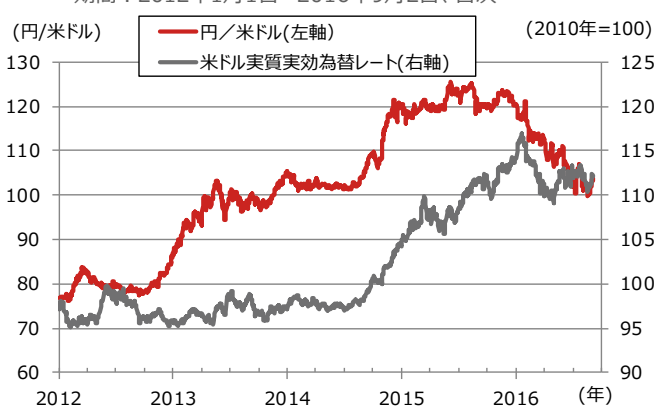
期間：1998年1月～2016年8月、月次



（出所）米労働省、FRBデータより野村アセットマネジメント作成

図3：米ドル実質実効為替レートと円/米ドル為替レート

期間：2012年1月1日～2016年9月2日、日次



（出所）JPエルガン、Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。